

# おてらでトーク 若年女性の孤立孤独と 社会的処方

## 孤立女性の支援を考える

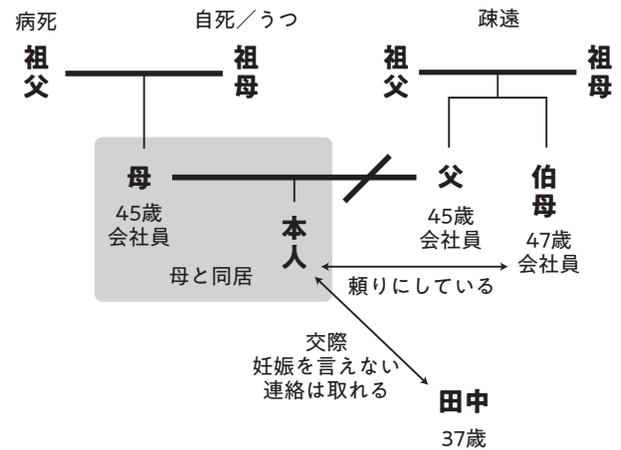
### ケースシート

※このケースはすべて架空です。いかなる個人情報も含んでいません

#### 本人の情報

##### 黒木 七海（くろき ななみ／仮）

19 歳女性。精神疾患をもつ母と二人暮らし。仕事はしていない。  
中学 1 年で不登校になって以来、家に引きこもっている。



#### 状況 腹痛から病院へ

夕方からの腹痛にて、夜間に母と一緒に救急受診。妊娠反応陽性で性器出血もあり、流産疑いで翌朝産婦人科に受診した。不全流産の診断で、1 週間後に 1 泊入院で子宮内容除去術を受けた。産婦人科の外来で助産師が話を聞き、同じ助産師が入院時に病室で話を聞いた。

#### 対応 病院で助産師が確認したことと対応

- 胎児の父は「田中さん」37 歳、芸能関係の仕事をしている。アイドルの推し活を通じて知りあった。性交渉は嫌だと伝えただが無理強いされた。妊娠のことは伝えていない
- 母は双極性障害があり、振りまわされるので会話しない
- 中 1 から学校には行けておらず、高校は通信制高校を卒業した。ほとんど家から出ない
- 親からは ADHD と言われているが、病院で診断されたことはない
- 得意なことは特にないが、幼少期にレゴで褒められたことがある
- 入院でひととおり話をきいたあと、経口避妊薬内服をすすめ、京都 SARA について説明した。今は相談したくないとのことだったが、カードを渡した
- 次回の外来受診時には、ピルの処方を通じて、外来で継続的に関わられるようにしたいと思っている。また、京都府引きこもり支援情報サイト、京都市ユースサービス協会その他の情報提供をするつもりである

#### 本人が考えていること、話さないこと

- 大変なことになってしまった。でも、妊娠した実感はない
- 病院が怖い、話を聞かれるのも嫌だったが、自分のことを話すことが少ないから、少し話してみてもいいかなと思った
- 母にいろいろ言われるのが嫌で家にいたくないが、行く場所がない
  - 彼（田中）にセックスを無理強いされてから、連絡を取りづらく会いに行きづらい
  - 彼のことはまだ好きだし、悪い人ではないから、うまく連絡を取りたい気持ちもある
  - 妊娠、流産の事実を伝えたら、別れられるかもしれないことが怖い
- 今後病院には行きたくない
  - 受診のたびに親にお金をもらわないといけない
  - 病院の人に話を聞かれるのが嫌
- 高校を卒業したし、このままはずい。今後、どうしていいか頭が真っ白。なにもしたくないが、気持ちだけが焦る
- 田中と連絡を取りづらくなり、話す相手がいなくて無性にさみしい